

第 188 回講演会 報告

「International Symposium on innovative environmental technology - air clarification and solid waste management-」

主催：広島大学環境安全センター

共催：中国地区化学工学懇話会

日 時：平成 27 年 2 月 6 日（金）17:00～18:00

場 所：広島大学 「環境安全センター」会議室

参加費：無料

参加者：15 名

招待講演 Dr. Byeong-Kyu Lee(ウルサン大学)

Dr. Srinivasa Reddy Mallampati(ウルサン大学)

Byeong-Kyu Lee 教授からは、可視光を利用可能な光触媒による、空気中に拡散している菌類の消毒技術が紹介された。二種類の金属をドーピングした新規 TiO₂ 触媒の利用波長や能力が、紫外線しか利用できない TiO₂ 触媒との比較やメカニズム解析の結果と共に紹介された。学生の参加者も多かったことから、基礎的な情報も含めた話をして頂けたが、詳しいメカニズム解析の検討結果や実用化時の問題点にも話が及び、最先端の空気清浄技術の開発状況を詳しく解説頂けた。

Dr. Srinivasa Reddy Mallampati 助教からは、自動車や家電製品からリサイクルしやすい金属等を除いた残渣であるプラスチック等のリサイクル困難物のリサイクル技術について、最新の開発技術の紹介をして頂けた。特に現場で問題となる樹脂種の紹介や、マイクロ波を用いた表面改質による種類分別や、ナノカルシウム粉末を用いた重金属溶出抑制技術など、現場に密着した最先端の開発内容を紹介頂けた。

いずれの講演においても会場から質問があり、予定時間を超えて十分な討論が行われた。有意義なシンポジウムであった。



Lee 氏の講演風景



Mallampati 氏の講演風景

(広島大学 奥田哲士)